

落とし込み釣りにおけるライフジャケット(救命胴衣)について(案)

8月25日北港における転落死亡災害発生において、落とし込み釣りの安全性を真剣に考えなければならぬと痛感いたしました。茅渚関西連合としてこの事故を機に落とし込み釣り時にはライフジャケットまたは救命補着用を義務付けました。

現在、各メーカーから市販されているものは磯釣り、船釣り、バス釣りを視野に入れたものであり、落とし込み釣りにおける機動性、通気性(夏場)、強度を満たしているものが見当たりません。

そこで、安全かつ快適に落とし込み釣りができるライフジャケットおよび救命補助具を提案いたします。

1. 自動および手動式救命補助具一体式フィッシングベスト

某メーカーから製品化されているウエストポーチ型救命補助具は、転落災害発生時に当該者の意識がない場合(熱中症等)、顔が海中に向いてしまう場合(水没)が想定されます。

やはり、上半身に浮力が集中し着水時に立った状態またはあお向けで浮いているもの、安全である。

自動膨脹式ライフジャケット + フィッシングベスト



各メーカーから市販されている自動膨脹式ライフジャケットは想定仕様状況から防波堤での使用においては災害時、岸壁に付着したカキやイガイなどの接触を考えると耐摩擦性、耐久性に欠けており破れる恐れがある。

現行のフィッシングベストの内側に自動膨脹式ライフジャケットを取り付ければフィッシングベストが外的なものからの損傷を防ぐことができると考えます。また、通常は膨脹していないためにフローティングベストよりも運動の妨げにはならない通気性も確保できるものとする。

取り付けを考え、取り外し可能にすれば手摺などが設備されている海釣り公園などにおいて気軽に使用可能なものになる。



両肩部分、サイド部分にシャーリングやストレッチ素材を用いて、着水時の膨脹機能の妨げにならないようにする

* 現在、製品化されている近いイメージのもの*

シマノ コンビネーションフローティングベスト・リミテッドプロ(機用自動膨脹)
VE-190D



膨脹気室

気室を摩擦に強い表生地と内側の固形浮力材との2重構造でカバーして安全性、耐久性を確保し、今までにない薄くコンパクトな着心地を実現。気室は膨脹時でも生地内に収納された設計

膨脹装置

落水センサーが水分に反応して自動で膨脹。装置は右肩部に配置し体へのあたりを軽減。表側はクロロレンとフラッシュ緑でプロテクター効果を発揮



膨脹時の岩場との擦れなどで気室を傷つけない様に、固形浮力材は肩部外側まで配置

2. 自動膨脹式ライフジャケットの強度アップ

従来のフィッシングベストの上から装着でき、落とし込み釣りの運動性を損なわず、通気面でも良好である。

着水膨脹時に現行のものより素材を見直し、イガイ、ナ等の岸壁付着物からの損傷を防ぐ強度を確保する。



3. インナー式救命胴衣

ジェットスキーなどマリンスポーツに用いる救命胴衣をフィッシングベストなどの下装備する。

特にジェットスキー用は身体のフィット感があり、激しいスポーツを想定しているので運動性にたけ、参考になるものが多い。浮力材の改良を行い肉薄な素材を用いればより快適性がある。

* 問題点は通気性で夏場の使用に問題が残る



4. 市販されているフローティングベストの改良

現在、市販されているフローティングベストの中でもショート丈のものはそのままでも流用できる。
しかし、磯釣りなどを視野に入れたものが多く、落とし込み釣り特有の前傾姿勢を多くとるスタイルには今一步の改良が望まれる。

ダイワ XVX・PEライトメッシュフロート XF-6111



《提案事項》

(1)前傾姿勢を考慮し、運動性をアップするために浮力材に折り目を入れる

— 折り目

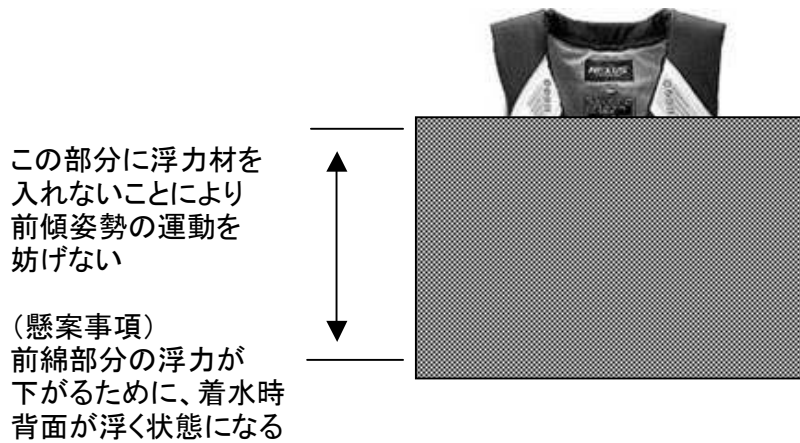


(2)着丈をヘソまでの位置にする



5.フローティングベスト浮力材配置の見直し

落とし込み釣り特有の前傾姿勢をしやすく、フローティングベストの浮力材を肩から腰までの前面部分に入れない



以上

助具

：

に

が

、

、

、

